

# 名事研ニュース 161号

名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会 <http://meijiken.sakura.ne.jp/>

今年度も新型コロナウイルスの感染対策の観点から参集しての定期総会を見送り、代わりにメールを利用した代議員会が行われました。代議員会の結果、令和2年度事業・決算報告、令和3年度事業計画、予算案等が承認され、本年度の名事研事業がスタートしました。

つながり ひろげ 学び 育む ～新時代のあるべき学校像を目指して～

会長 早川 数幸

令和3年度事業について、紙面による定期総会を経て、本格的に事業がスタートしました。令和元年度末からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、定期総会が2年続けて紙面開催となり、参集によって直接会員にこちらの考えを伝える場面が減少したことで、会員との共通理解がどこまで図られているか不安ではありますが、今まで以上に丁寧な説明を心掛け、会の運営にあたりたいと考えています。

一方で、本市では昨年度からの状況に対応するため、様々な環境整備が行われました。名古屋市のイントラネットワークで使用できる市内Web会議システムや外部端末でも連絡可能なL o G oチャットが導入されたことで、参集しての会合や電話・メール以外での打ち合わせが可能となるなど、会のもち方や日常の連絡方法にも変化がありました。また、教育現場に目を向けると、G I G Aスクール構想の整備が大幅に前倒しされ、本市でもいよいよ本格稼働が間近です。学校のI C T環境が急激に進む中、令和3年1月中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』において、学校事務職員に「I C Tを活用した教育活動に必要な人的・物的資源等の調整・調達などを通して積極的に参画できるよう、I C Tに関する研修等の充実を図る」とあります。これは、学校における教育環境が変わる中、学校事務職員にも学校運営を支える専門性を発揮し、時代の変化に対応できるよう、常に学び変わり続けることが求められる一例だと思えます。



本会組織としても、研究会活動に対する考えの変化や学校事務職員を取り巻く制度が変化する中、これまで同様の運営は難しいという課題があり、組織としての新しい形を検討しなければならない時期にきています。会長5年目となる集大成として、固定観念に捉われず今までの当たり前の形を見直し、必要なことを精選し、持続して活動できる会のあり方について検討を進め、活動の歩みを止めないように取り組んでいきます。

## 【今年度事業と、新たな取り組みについて】

本会事業は、事業計画に沿って進めていきます。事務局及び各専門部は、できることを工夫して実施した昨年度の取り組みを継続しつつ、新たな環境の利用や活用方法の検討を進めています。

多くの方々と話す中で、外部から本会に寄せる期待は大きく、それによって様々なご支援をいただけていることを常に感じています。これも、諸先輩の努力と実績によるところと思いをはせ、これまで以上に渉外に力を入れることとしました。

まず、市校長会には、これまでも研究大会の助言者や講師などでご協力いただきましたが、この他に通常の専門部活動などの際に、定期的に我々の研究について助言をいただけるように依頼しました。また、研究大会への参加を依頼するなど、本会の学校事務研究について、よりご理解、ご協力いただけるよう進めています。さらに教育委員会とは、学校事務の手引きの改訂を含めたマニュアル作成など、これまで以上に連携して活動を行います。その他、必要に応じて、他団体や各地区の事務研究団体とこれまで培ってきた「つながり」を生かし、情報収集や調査などを依頼し、活動に生かす予定です。今年度名事研テーマの「つながり ひろげ 学び 育む ～新時代のあるべき学校像を目指して～」を体現できるように活動を行います。

# 専門部紹介

## 事務局

事務局長 小島 啓治

事務局は、名事研組織の事業計画の策定を始め、名事研事業のあり方の検討、各専門部活動や世話係会との連携が円滑に図れるように、統括的な立場で組織の運営にあたるための企画・立案・推進機関としての役割を持ちます。

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、試行錯誤しながら本会の運営にあたっています。今年度は、例年行っている事業や延期された周年事業の他、これからの名事研のあり方について、世話係会とともに検討を進め、研究会組織としての目標達成のために総括・調整を行いたいと考えています。

会員のみなさまには、世話係会（各区世話係）を通じて、ご意見を伺うことがあるかと思っておりますのでご協力をお願いします。

## 研修部

研修部長 木下 順也

研修部では、全体研修会や小規模研修会「事務-Gym」（じむジム）の企画・運営や、自主研修資料の作成・公開を通じた、学校事務職員の資質向上のサポートを目標に活動しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研修のあり方を大きく見直す機会に直面しています。これまでのような集合研修は感染対策を徹底して実施するとともに、オンラインのツールなどを活用した新たなスタイルの研修を提供できるよう、研修部一同、試行錯誤しています。

どんな形の研修であれ、大切なのは「学びたい」「成長したい」という一人ひとりの意欲ではないでしょうか？その意欲を後押しできるような研修部でありたいと思っています。今年度もぜひ、研修会や研修資料をご活用ください！

## 研究部

研究部長 清水 麻里子

名事研の研究活動を推進します。今年度は「学校事務職員組織」に関する研究を行います。

学校事務の学校間連携が全市で実施され、10年が経過しました。その間、学校事務職員標準職務の改正、権限移譲に際した職階の変更、学校教育法における職務規定の見直し、共同学校事務室の制度化、社会的にみるIT技術の発展など、私たちを取り巻く環境は大きく変化してきました。

このような変化を踏まえ、学校運営に貢献していくためには、「個」を超えた「組織」の力を一層生かしていく必要があると考えます。先行事例等も参考にしながら、目的を多角的に整理し、皆様と共に新しい組織の形を考えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 情報部

情報部長 齊藤 綾子

情報部は、学校と関係機関に名事研活動を広く知ってもらえるよう「名事研ニュース」を発行し、HPを更新しています。また、会員向けには、広報誌「じむけん！」を発行するとともに、HPでスキルアップに関する資料や情報等を提供しています。昨年度は予算書、決算書の作成がより効率的に行えるソフト「すいすい予算管理」を作成して公開しました。また、研究活動に役立てるため、情報調査を継続的に実施し各学校での学校事務職員の実態をデータ化しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響や、学校におけるICT環境の変化等により、学校事務職員に必要な情報やスキルも変化が生じていると思っております。そうした状況を念頭に置きながら、会員にとって役立つ情報や資料を提供していきたいと思っております。